

■献血をご遠慮いただく方

- 3日以内に出血を伴う歯科治療を受けた方



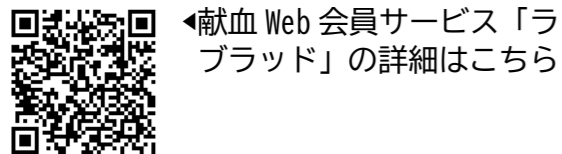
- 4週間以内に海外から帰国(入国)した方



- 今までに輸血(自己血を除く)を受けたことがある方
※当日、医師の問診により献血の可否を判断します。

■ Web 予約をご活用ください

献血 Web 会員サービス「ラブラッド」から献血の予約が可能です。また、事前に問診の回答ができるなど、便利な機能がたくさんあります。ぜひご活用ください。



献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の詳細はこちら

■献血できる方

年齢、体重などの制限があります。全血献血の対象は以下のとおりです。

1回採血量	200 ml	400 ml
年齢	16～69歳 ただし、65～69歳の方については、60歳に達した日から65歳に達した日の前日までの間に献血をされた方に限る。	男性 17～69歳 女性 18～69歳
体重	男性 45 kg以上 女性 40 kg以上	男女 50 kg以上



献血基準の詳細はこちら



献血をご遠慮いただく方の詳細はこちら

■献血にご協力いただいた方へ

献血にご協力いただいた方には、時期によってさまざまな記念品を用意しています。希望者には血糖値や肝機能、コレステロール値など健康指標の検査結果をお知らせします。



検査項目の詳細はこちら



7月は「愛の血液助け合い運動」月間

厚生労働省は、都道府県、日本赤十字社と協力して、血液事業を安定的・継続的に維持し、血液製剤の国内自給を確保するため、毎年7月に「愛の血液助け合い運動」月間を実施しています。

7月中は、全国各地で啓発活動が行われます。本運動を通じて、国民一人一人、特に若い世代に献血へのご理解とご協力を呼びかけます。献血は命を救う身近なボランティアです。ぜひ、献血のご協力をお願いします。

健康推進課 ☎874-2697

■令和8年度献血バス配車計画

日程	場所	受付時間
7月2日(木)	永守重信市民会館	午前9時30分～正午
9月15日(火)	乙訓保健所	午前10時～正午
	向日回生病院	午後2時～4時15分
11月4日(水)	永守重信市民会館	午前9時30分～正午
令和9年3月16日(火)	乙訓保健所	午前10時～正午
	寺戸公民館	午後2時～4時

※イオンモール京都桂川では、随時献血を行っています。

7月は「愛の血液助け合い運動」月間

- てらす七夕まつり&JR向日町駅開業150周年記念イベント…… 6
- 公営企業課・上下水道施設課が市役所別館3階へ移転します…… 9
- 夏休みイベント特集…… 10
- くらしの情報…… 14
- 子育て支援情報…… 26
- 健康づくり情報…… 28
- 各種相談日程…… 29
- 図書館だより…… 30
- スポーツフレンドシップ協定連載(サンガ編)…… 31

- 市役所への窓口来庁や電話でのお問い合わせは、平日午前8時30分～午後5時15分までです。電話は、各担当課の直通電話(または代表番号 ☎931-1111)にお掛けください。※公民館やコミセンなどの公共施設は、各施設の開館時間内をお願いします。
- 市役所へのファクスは ☎922-6587、郵便物は 〒617-8665 向日市役所(住所不要)、電子メールは ☒info@city.muko.lg.jp にお送りください。※ファクス、郵便物、電子メールには、市役所のどこの課(担当課名)宛てかをお書きください。
- 参加費などの記載がないものは、無料でご参加いただけます。

広報むこうは市ホームページでご覧いただけます。

<https://www.city.muko.kyoto.jp/>

市公式SNSはQRコードからご覧ください。



【まちのうごき】(令和8年6月1日現在)
住民基本台帳人口
人口 55,674人 世帯数 25,913世帯
(男性 26,701人、女性 28,973人)
推計人口
人口 55,162人 世帯数 23,991世帯
(男性 26,233人、女性 28,929人)

献血の流れ

受付

本人確認、同意の確認をした上で、献血を申込みます。あわせて十分な水分補給を行います。その後、体重測定や健康状態の質問(問診)に回答します。

問診・事前検査

問診に基づき、再度の問診、血圧・脈拍・体温測定などを行います。

採血

また、少量の採血を行い、ヘモグロビン濃度などを調べます。

休憩

採血ベッドで横になり採血を開始します。

- 所要時間
- 全血献血 / 10分～15分
- 成分献血 / 40分～90分

終了

採血後は十分に水分を補給し、10分以上休憩します。

ラブラッドアプリで次回献血可能日を確認することができます。※アプリの画面表示にはタイムラグが発生します。

命のつながり

自分の血が誰かの助けになるということに興味があって、大学生の頃からずっと年に3回続けてきました。

体の状態によっては協力したい気持ちがあっても献血できない人もいて、歯がゆい思いをすることもあると思いますが、状態がよくなって献血できる日もあると思いますので、あきらめず献血に来てみてください。

献血をした方 (40代)

職場に来ていた献血バスで献血を始めたことがきっかけですが、今では旅先で時間があれば、その地域の献血ルームや駅前の献血バスを探して旅の記念に献血をしています。全血献血なら時間もそれ程かかりません。

献血に協力すると記念品がもらえる上に人の役に立てていいことばかりです。ぜひ、一度献血をしてみてください。

献血をした方 (50代)

献血を始めたきっかけは自分の健康のためでした。新しい血液を作るためにもなりますし、血液検査も兼ねて定期的に来ています。

イオンモールでの献血は、買い物のついでに来やすいのもいいです。

血液が不足しているという話を聞きますし、自分の健康のためにすることで、人の役に立てるのはいいことだと思います。

献血をした方 (30代)

私が悪性リンパ腫を発症したとき、退院するまで数えきれないほどの輸血を受けて治療することができました。献血をしてくださった皆さま、本当にありがとうございます。

私は輸血を受けたことで、献血をすることができませんが、誰かの血が私を救ってくれたこと、あなたの血が誰かの命を救えるということを伝えていきたいです。

輸血を受けた方 (30代)

令和7年度に市内で献血20回を達成された献血功労者の春田さんにお話を伺いました。

— 始めたきっかけは

20年くらい前から献血推進実行委員会の奉仕員として、献血の受付や、記念品の準備などのお手伝いをしていたことがきっかけです。ただ、奉仕員を始めたころは400mlの献血に不安があり、献血をしていませんでした。

実際に献血を始めたのは15年くらい前です。奉仕員の新しいペアの方が何度も献血をされている方で、「献血は怖くないよ」と教えてくださり、一度受けてみると「なんてことはないんだ」と気づきました。

それから年に1、2回献血をしていると、気づいたら20回という節目を迎えていました。これからも、できる限り続けていこうと思います。

— 献血の時に気を付けていること

当たり前のことですが、前日にはきちんと睡眠をとること、あとは食事をしっかりとることを心がけています。

献血は怖いことではないですが、献血後は軽いだるさなどが出る場合がありますので体調を整えるように気を付けています。献血後に休むことも大切です。



献血功労者の春田さん

当日は体調やけの有無、海外旅行に行ったかどうかなど、自分の状態についてしっかりお話しすることも大切です。

— 献血に不安がある方へ

お医者さんや看護師さんがしっかり診てくださるので、不安なことはないと思います。献血の最中はずっと声をかけてくださるので安心できますし、赤十字の職員さんも細かな心配りをしてくださるので、もしも不安なことがあったら伝えてみてください。

— 献血について思うことは

献血はひそかにどこかで誰かの役に立てる、そう思うとうれしくなります。しなければならぬと気負う必要はないですが、駅や商業施設、市役所など日常のいろんな場所で行っていることが多いので、気軽に行ってみてください。そのきっかけが習慣になって、続けてもらえるといいなと思います。

献血は命をつなぐボランティア

病気やけがの治療に必要な血液ですが、科学技術が発達した今日でも、血液を人工的に造ったり、長期保存したりすることはできません。輸血を必要とする方を救うためには、皆さまの献血への協力が欠かせません。



知ってほしい献血に関する4つのこと



1 年間約100万人

国内で輸血を必要とする方が年間約100万人、京都府内で1日に300人いると言われています。

毎日、多くの患者さんが血液を必要としています。



2 血液は人工的に造れない

現代は医療技術がどんどん進化していますが、血液を人工的に造ることはまだ難しい技術です。

「献血」でたくさんの人からご協力いただき、血液を集める必要があります。



3 血液は長期保存ができない

献血された血液は、赤血球をはじめ、血を固めて止血する血小板、さまざまな役割がある血漿に分けて製剤化し、輸血として使われますが、血液は生きた細胞の集まりなので、長期保存することができません。

いつでも患者さんに血液を届けられるように、健康な皆さまの献血へのご協力が毎日たくさん必要です。



4 輸血の使い道

集められた血液の多くは、がんや白血病、再生不良性貧血などの病気と闘う人のために使われています。

白血病やがんの患者さんに使われる抗がん剤は、副作用で貧血が起こることが多く、輸血が必要となります。

血液は人間の生命を維持するために必要な成分であり、体から一定量が失われると命に関わります。また、血液の持つ機能が正常に働かなくなると病気になったりします。

このような病気の治療で、血液は常に必要とされています。